

起きていない

わかっている。  
けれど、何も起きていない。

理解はしている。  
納得もしている。

間違っているとは思わない。

それでも、  
何も始まっていない。

それは、理解不足ではない。  
情報が足りないわけでも、  
考えが浅いわけでもない。

説明はできる。  
理由も言える。

正しいとも思える。

けれど、  
それはどこか遠くにある。

自分のこととして、  
起きていない。

この状態では、  
すべては思考の中で完結している。

気づきも、納得も、  
言葉の中で終わる。

だから、現実には触れない。

選択も、反応も、  
何ひとつ変わらない。

出来事は通り過ぎる。

理解できる人ほど、  
それを自分の出来事にしない。

自分の中に入らず、  
そのまま外側で終わっていく。

自分に起きていない状態では、  
人はよく語れる。

説明もできるし、  
理解も深い。

語れる人ほど、  
何も起きていない。

だからこそ、  
変わっていないことに気づきにくい。

理解していることと、  
起きていることは、別だからだ。

どれだけ正しくても、  
自分に触れていなければ、  
何も始まらない。

すべては、わかっている。

ただ、

自分には起きていない。



Edition — 存在の芯  
別景：起きていない

著者：美学思想家 古川玲奈  
発行：Raffiné  
2026